

「阪神高速 未来へのチャレンジプロジェクト」 第4回助成・事業実施報告書

1. 基本事項

| | | | |
|------------|--|-----|------|
| 団 体 名 | 特定非営利活動法人 多言語・多文化サポート ICHI | | |
| 事 業 名 称 | 地域で育てる多言語・多文化社会 —子どもたちの未来をつなぐ— | 助成額 | 50万円 |
| 申請事業の概要 | ①外国につながる親子支援として、「放課後日本語教室」の実施と「やさしい日本語で話す生活セミナー」を開催、②地域のすべての親子を対象とした多言語・多文化交流イベントを開き、将来を担う子供たちに対し多文化共生等の啓発を促す。 | | |
| 申請事業の目的 | 「人や国の不平等をなくそう」を目標に、以下を達成することを目標とする。 ①日本語の学習が必要な子どもたちに十分な支援を行い、将来の選択肢を増やす ②外国につながる親子をサポートすることで、国籍やルーツによる格差を取り除く ③この事業に参加する若者が人や国に偏見を持つことなく対等な関係を築こうとする ④地域に暮らす親子と外国人住民と出会う場をつくり、異文化を認め合う。 | | |
| 関連するSDGs目標 |  目標10「人や国の不平等をなくそう」 | | |

2. 助成事業の実績・成果等について

1) 継続開催型事業

1-1.「こども日本語教室」内容：日本語支援が必要な子どもの日本語と学習のサポート

金曜日 17：00-19：00 場所：東大阪みらい日本語学校

土曜日 10：00-11：30 場所：東大阪市文化創造館（4月～新設）

参加人数(延べ)：金曜日（49回開催）子ども172名、サポーター/スタッフ/見学等277名
土曜日（33回開催）子ども167名、サポーター/スタッフ/見学等173名 [総数] 789名

成果：これまで週1回で実施していた教室を、週2回に増やすことができた。

新たな場所で活動を行ったことで、より広い地域の子どもたちへ支援を届けることにつながった。

また、サポーターへは少額ながら謝金を支払うことができた。さらに、長期的に使用できる教材等を購入することができたため、今後の活動の継続性も期待できる。

1-2.「多言語多文化教室 PIKA★ICHI 世界の博士になろう！」

内容：世界のことばや文化に触れて、知って、学ぶ

ネパール、イラン、韓国、中国、ミャンマー、クリスマステーマに計6回開催

2025年5月より月1回土曜日 10：30-11：30 場所：東大阪市文化創造館

参加人数：子ども72名、サポーター/スタッフ/保護者/見学等64名 [総数] 136名

成果：地域に暮らす子どもたちが、さまざまな国や地域のことばや文化、人と触れ合い、知り、学ぶ機会をつくることができた。大規模なイベントではなく少人数制としたことで、講師との距離が近く、子どもたちにとってはより深い学びにつながったと感じている。また、講師を務めた外国につながる人々にとっても、自らの文化やことばを紹介する貴重な機会となり、自文化への理解を深め、アイデンティティを再認識する契機ともなった。

1-3. 子ども日本語教室で活動したい人のための研修会開催

実施日時：5月30日(金) 17：00-18：30 場所：東大阪みらい日本語学校

参加者：5名、スタッフ4名 合計9名

成果：1-1において新教室を立ち上げるに際し、サポーターを増員する必要があった。

そのため研修会を開催し、新たなサポーターを確保するとともに、既存のサポーターの知識を強化することができた。



2) イベント型事業

2-1.「やさしい日本語で話す生活セミナー」 2回開催

・内容：親子マッサージ 実施日：6月28日(土) 13:30-16:00

場所：東大阪市文化創造館

参加者：大人8名、子ども10名、講師1名、スタッフ6名 合計：25名

・内容：交通安全講習と遠足 実施日：11月29日(土)

講習 10:30-11:30 場所：東大阪市文化創造館 参加者：大人10名、スタッフ5名 合計：15名

遠足 13:00-17:00 場所：伊丹スカイパーク

参加者：大人8名、子ども12名、サポーター9名、スタッフ5名 合計：34名

成果：地域に暮らす外国人住民に対して、子育てや交通安全をテーマとしたセミナーを開催することができた。日本語学習の方でも安心して参加してもらえるよう、やさしい日本語を用いて実施したことで、言語に不安を抱える外国人住民が新たな情報を得る機会を提供できたと考える。また、遠足では、普段は関わる機会が少ない子ども日本語教室の保護者と交流することができ、子どもたちの意外な一面を見ることができた貴重な機会であった。

2-2.「PIKA★ICHI 美術館」 内容：外国につながる親子のアート作品展示、体験型ワークショップの開催

実施日時：2月16日(日) 12:00-16:00 場所：東大阪市文化創造館

参加者内訳：大人50名、子ども29名、サポーター30名、スタッフ5名 合計：114名

成果：PIKA★ICHI 美術館では、外国につながる子どもたちの表現の場をつくり、地域住民が多文化に触れ、学び、交流する機会を提供している。作品展示や体験型プログラムを通じて、子どもから大人まで幅広い世代が参加し、互いの文化への理解が深まった。また、大学生や留学生が運営に関わることで、若い世代の地域参加も促進された。地域における多文化共生の推進に寄与する取り組みとなった。

2-3.「PIKA★ICHI 世界の夏祭り」 内容：世界の遊びを通じた国際交流イベント

実施日：7月19日(土)・20日(日) 14:30-17:30 場所：東大阪市文化創造館

参加者(延べ)：大人94名、子ども89名、サポーター101名、スタッフ10名 合計：294名

成果：このイベントでは、地域に暮らす外国人住民と日本人住民が共に参加し、各国の遊びを通じた交流を深める機会を創出することができた。外国につながる人々、大学生ら若者や留学生が運営に関わったことで、地域参加の促進にも寄与した。多文化共生を身近に感じられる貴重な取り組みとなった。



3. 課題分析や今後の発展性

本事業では、子ども日本語教室や多文化学習、生活セミナー、交流イベントを通じて、多様な住民が出会い、学び合う場を創出することができた。しかし、単発の出会いだけでは関係性は深まらず、継続的に顔を合わせる機会をいかに維持するかが今後の重要な課題である。また、活動の拡大に伴い、サポーターの育成や運営体制の強化に加え、安定した運営費の確保も避けて通れない課題である。今後は、若者や留学生の積極的な参加を促しつつ、持続可能な運営基盤を整えることで、地域全体に多文化理解の輪を広げていきたい。

4. 代表者又は担当者からのひとこと

一年間という時間で、上記の教室活動、複数のイベントを実施することができました。十分なお支援いただいたおかげで、参加者の皆さまにも満足していただける内容にできたと感じています。また、多くの方々にお手伝いいただくこともできました。大学生をはじめとする若い世代や、地域との関わりが少ない留学生にとっては社会参加にもつながる貴重な機会となりました。また、地域の親子を含む多くの住民の方々にとって、多文化共生を「知り・学び・体験する」場となり、楽しみながら互いの文化に触れ合う時間が生まれました。外国人に対して排他的な考えが強まりつつある今だからこそ、このような取り組みは欠かせないものだと感じています。国籍や背景でひとくくりにするのではなく、一人の人として出会い、関わることにこそ大きな意味があると考えています。今後も、今回のご支援を大切にしながらより良い活動づくりに努めてまいります。有難うございました。